

2012年度卒研配属者のための 研究室説明会

日時：12月7日（水）12:15-13:00（3時限目）

場所：3C310教室

内容：

- ・各研究室の指導内容
- ・研究室配属決定までの手順

目次

- | | |
|---------|----------|
| 1. 有馬研 | 11. 高木研 |
| 2. 生稲研 | 12. 竹原研 |
| 3. 岡田研 | 13. 張研 |
| 4. 金澤研 | 14. 辻研 |
| 5. 岸本研 | 15. 八森研 |
| 6. 倉田研 | 16. 藤原研 |
| 7. 近藤研 | 17. ミヤオ研 |
| 8. 佐藤研 | 18. 山本研 |
| 9. 繁野研 | 19. 吉瀬研 |
| 10. 住田研 | 20. 渡辺研 |

注意

- ・先生への面談のアポイントメントをとる場合は、原則として、説明会の後でお願いします。
- ・この冊子は、一人につき一部、配布します。再度、配布することはありませんので、大切に保管して下さい。

経営工学主専攻 研究室配属決定方法

研究室配属決定方法の基本方針

3 年生クラス担任監督の下, クラス代表を中心に学生主体で各研究室所属人数の調整を行う。

平成 23 年度の 4 年生の配属は平成 24 年 3 月 31 日まで

卒業研究に合格しなかった 4 年生については, 平成 24 年 3 月 31 日までに受け入れ教員の印をもらう。

研究室配属決定までの流れ

日付	内容	担当
12 月 7 日(水)	研究室配属説明会	3 年生クラス担任
12 月 8 日(木)～	メールなどでアポを取り, 研究室訪問・面談を行う。各教員は受け入れの要件や上限人数を伝える。	学生, 教員
1 月 11 日(水)	予備希望調査	クラス代表, その他の学生
1 月 25(水),26(木)日	卒業研究発表会に参加	学生
1 月 31 日(火)	最終希望調査及び調整	クラス代表, その他の学生
2 月 1 日(水)～7 日(火)	上限数以下となった研究室への所属希望の学生は, 教員から申請書に印をもらう。	学生, 教員
2 月 3 日(金)まで	希望者が上限数を超えた研究室において学生間での調整が困難な場合, クラス担任とその研究室の教員が調整を行う。所属が許可された学生は, 教員から申請書に印をもらう。	クラス担任, 教員, 学生
2 月 7 日(火)まで	希望研究室に入れなかった学生と相談。上限数未満となっている研究室の教員と面談し, 所属研究室を決め, 印をもらう。	クラス担任, 教員, 学生
2 月 7 日(火)まで	卒業研究指導教員の申請書を提出	学生

研究室名	有馬 R 研究室 (有馬澄佳 講師)	
e-mail/HP URL	arima@sk.tsukuba.ac.jp / http://www.sk.tsukuba.ac.jp/~arima など	
場所	研究室:3F1231 (内線:5558) 実験室:3F716(内線: 5578)	
研究分野	1. 多品種生産における QCD 考慮の生産スケジューリング 2. 連続マルチタスク装置の設計と運用の適正化手法, 装置管理システムの研究 3. 地域活性化のためのイノベーションとマーチャライジングの研究 (特に地域資源活用と買い物弱者対策に関して) 1, 2は、企業との共同研究を予定。	
過去の研究論文題目	・卒業研究ならびに修士論文などの各種 HP を参考にしてください。	
募集人数	最大3人程度	
研究室の人数	今年 学類: 3 人 修士: 3 人、研究生 0 人	来年(予想) 学類: 3 人 修士:2 人 (+研究生 1 人)
ゼミの頻度	原則的に、週 1~3 時限分程度	
ゼミの形式	[1 学期]1 週間に1回の輪読ゼミを行う。そこで研究室の共通の知識を身につける。 [2,3 学期] 基本的に、週1コマの個人指導および 1or2 週間に1回の全体ゼミを行う。 全体ゼミでは、各人の研究・論文の進捗状況をチェックし、改善を図る。アドバイザー制を設ける。個人指導の時間には、現在の進行状況の報告と改善策の話し合い、次週までの課題と実施方法の確認を行う。特別集中ゼミ(夏休み期間内の合宿)も予定。	
年間スケジュール	5 月 GW 明け~6 月: 研究内容を具体的に決定 (x 月 進路決定??がんばれ!) 8 月:合宿 (2 日間程度)、12 月:年末調整 (忘年会?)、 3 月:歓送迎会	
履修しておくべき科目	学類:経営工学基礎演習, 数理系全般, 統計学, 生産・品質管理, 経営の科学など 大学院: 数学I,II, 統計学, オペレーション管理など	
必要とされる知識、能力 (アプリケーション、語学 力など)	必要とされる知識や能力は研究テーマにもよりますが、以下は共通項目です ・数学基礎、・OR 手法、・経営学(経営学、生産・品質管理含む)、 ・プログラミングスキルまたはソフトウェア活用能力(データ解析は R か S-plus 他自作) ・自律性(計画性と実行力)、自立性(やる気を継続する力)、良い倫理観、協調性	
過去の学生の進学就職 比率	(2006 年度) [修士] 就職 100%: 進学 0%, [学類] 就職 25% : 進学 75% (2007 年度) [修士] - [学類] 就職 100% (2008 年度) [修士] 就職 75% : 進学 0%, [学類] 就職 100% (2010 年度) [修士] - [学類] 就職 100%	
過去の学生の進路	(2006 年度)進学: システム情報工学研究科 社会システム工学専攻(6名) (2007 年度)入学: システム情報工学研究科 経営・政策科学専攻(2名) (2010 年度)入学: システム情報工学研究科 経営・政策科学専攻(1 名)	
	('06-10 年度) 就職(学類): 日立製作所, みずほ銀行, NTTデータ, 日産自動車, NEC, 静岡県庁	
	就職(院生): 日本精工, NTTコムウェア, Panasonic, 富士ゼロックス, 明治製菓	
配属決定までのながれ	原則的に、大学の配属手続きに従って決定します。	
自由記述	* 素直な学生さんを希望します。 * “To Advanced Knowledge and Management for Humanity” 21世紀を担う私達の、社会問題に積極的に向き合い、考える学生さんを募集します。 * 実務経験: 必要に応じて企業への研修、工場見学等を行います。企業等との交流の場で、社会人としてのマナーや企業における倫理、情報、知的財産の管理等も学んでほしいと考えています。	

研究室名	イノベーション研究室（「イノ研」）
e-mail アドレス	fikuine at sk.tsukuba.ac.jp（at を@におきかえてください）
場所	研究室： 3F1030
研究分野	製品開発マネジメント イノベーション・マネジメント MOT (Management of Technology)
過去の研究のテーマ、論文題目	2012 年度から新規に募集します。 研究テーマは自由です。
募集人数	3～5 名程度
ゼミの頻度	週 1 回、2 時限(3 時間)程度
ゼミの形式	文献輪読 個人研究発表 学位論文プロポーザル
年間スケジュール	2～3 月：経営学の基礎的知識の習得（テキストの独習） 4～7 月：MOT に関する基礎的文献の輪読、研究テーマ決定 8 月～10 月：個人研究 11 月～12 月：論文執筆
履修しておくべき科目	社会科学関連科目（経営学、経営史、会計学など）
必要とされる知識、能力（アプリケーション、語学力など）	経営学の基礎 英語文献を読みこなす能力 広く、深く考え続ける意欲
配属決定までのながれ	(1)メールでの応募 (2)書類審査 (3)面接
自由記述	<p>本研究室では、定性的な手法を用いて、社会科学(経営学)のアプローチで企業活動の記述、分析を行います。主に、企業の開発活動、イノベーション・マネジメント、MOT について学びますが、必ずしもそれに囚われる必要はありません。</p> <p>研究テーマは自由ですので、広い視野をもって、研究に値するテーマを探す力が、まず求められます。さらに、それを確かな事実(fact)と明快な論理(logic)で解釈する力が求められます。そして、自らの研究テーマを、事実と論理で説得的に論文に仕上げる力が求められます。</p> <p>このように書くと難しいようですが、研究は楽しむものです。日々の生活の中から、「なぜだろう」という関心を抱いて、それを楽しみながら、研究成果に昇華させてください。</p>

研究室名	会計工学研究室（岡田研） 「俺たちの時代は、俺たちが創る！」	
e-mail アドレス	okayu@sk.tsukuba.ac.jp	
HP URL	http://www21.atwiki.jp/office1031/pages/1.html	
場所	研究室： 3F1031	実験室： 3F615&616
研究分野	実証会計学、次世代型会計情報システムの研究開発、実験経営学	
過去の研究のテーマ、論文題目	病院医療法人の財務状況に関する計量分析、PSLX 準拠 OOCM の実証的研究、ビジネスゲームによる実験経営研究など	
募集人数	4 名程度	
研究室の人数	今年 学類：8 名（3 年生含む） 修士：15 名（MBA 含む） 博士：1 名	来年（予想） 学類：4 名 修士：13 名 博士：1 名
ゼミの頻度	プロジェクト別ゼミを中心に週 2 回程度	
ゼミの形式	3F1031 にて、1 回 75 分程度	
年間スケジュール	2~6 月：研究 OJT、研究計画 7~10 月：研究 OJT、研究計画の実施 ・一橋大&法政大との合同ゼミ合宿 11~1 月：研究 OJT、学位論文の執筆 ・年末論文合宿	
履修しておくべき科目	会計学概論、マネジメント実習	
必要とされる知識、能力（アプリケーション、語学力など）	心：自分の利益でなく、ご利益。「世のため、他人のため」。 技：提携企業など外部の方と粗相なくやり取りできるコミュニケーション能力とスピード感。 体：とにかく明るく元気で。若いのだから。	
過去の学生の進学就職比率	進学 70%、就職 30%	
過去の学生の進路	進学：筑波大学大学院システム情報工学研究科、京都大学法科大学院、一橋大学大学院商学研究科など	
	就職（学類）：監査法人トーマツ、電通マネジメントサービス、郡山市役所、信金中央金庫など	
	就職（院生）：東京計器、SCSK、電通ダイレクトフォース、ヤマハ発動機、JA 共済、静岡県信用保証協会、千葉市役所、アクセンチュア・テクノロジー・ソリューションズ、ゴールドマン・サックスなど	
配属決定までのながれ	インターンもしくは合同説明会（1 月 10 日 18 時 30 分に研究学園駅改札集合）⇒エントリーシートによる書類審査⇒社員による面接審査⇒入社決定	
自由記述	つくばの社工（と広島東洋カープ）が大好きです。 どんなに小さな分野でもよいので、何かの分野で日本チャンピオンになってください。そうすれば、世界が変わります。 私の夢は、後継者を育てること。つくばの社工を愛し、研究に誠実な若者にはやく譲る、その潔さを美徳と考えています。	

研究室名	金澤 雄一郎	
e-mail アドレス	kanazawa@sk.tsukuba.ac.jp	
HP URL	http://www.trios.tsukuba.ac.jp/Profiles/0004/0000605/profile.html	
場所	研究室: 3F1213 実験室: 3F436	
研究分野	データ解析・統計学関連分野(マーケティング・産業組織論、医療統計・生物統計、組織行動論、社会学・犯罪理論・犯罪行動等その他)および理論統計学(欠損値解析、一般化線形モデル、ノンパラメトリック関数推定理論)	
過去の研究のテーマ、論文題目	上記に関するさまざまな分野ですが、学生が自らの将来の進路・計画および興味を考えながら、教員のアドバイスを受け、最終的には自分で責任をもってテーマを絞りこんでゆくことがとても大切だと考えています。	
募集人数	原則 4 人	
研究室の人数	今年 学類: 4 修士: 3 博士: 4	来年(予想) 学類: 4 修士: 2 博士: 3
ゼミの頻度	基本的に学類生には週 30 分から 45 分、大学院生には週1時間 15 分の個人指導と週1～2時限の全体ゼミを行います。院生は卒業直近になるほど午前中の早い時間に論文指導を行ないます。	
ゼミの形式	個人指導の時間には現在の進行状況のチェックと次週までの作業の打ち合わせを行います。全体ゼミの内容として来年は今年に続き Introduction to The Theory of Statistics と Understanding Analysis を読む予定です。昨年は渡邊研究室の学生とともに LISREL のワークショップを夏に行いました。	
年間スケジュール	4～8 月 基礎文献の収集・テーマの設定 8～11 月 データの収集、解析 12 月～1 月 論文執筆 が学類生の予定です。大学院生になったら授業も含めて週 60 時間勉強してください。	
履修しておくべき科目	統計学I・II、データ解析	

必要とされる知識、能力（アプリケーション、語学力など）	英語の文献を読むことになる可能性が高いので、英語が嫌いでないこと。 人間のさまざまな行動（消費・購入・販売・犯罪）の少なくとも一面に興味を持てること。
過去の学生の進学就職比率	約 50%進学（うち 20%程度博士進学）、約 50%就職
過去の学生の進路	進学：筑波大学システム情報工学研究科、経営・政策科学研究科、シカゴ大学ビジネス・スクール等
	就職（学類）：日立情報システム（複数名）、東芝、三菱 UFJ 銀行（複数名）、日本IBM、野村総研、東北電力、インテージ、豊田通商、みずほ銀行、静岡銀行、NEC その他ですが一般的にいうと業務SEが多いと思います。
	就職（院生）：兵庫教育大学、埼玉工業大学、神戸大学、文部科学省科学技術政策研究所、ソニー、日産自動車、みずほ信託銀行、日立、三井住友海上、インテージ、三菱マテリアル、大和投資信託、ワイス製薬、アクセンチュア等何らかの形で統計学を使う機会がある・統計学を常識としてもっていないと勤まらない職場、あるいは専門的に統計学を使う職場が多いと思います。
配属決定までのながれ	当研究室に興味を持った人はメールをください。面接の日程を調整します。
自由記述	1) より良い世界をつくるために社会に貢献するという使命感を持つことは大切なことだと思います。 2) 仕事の時間とそれ以外の時間をうまく分けることのできる time management のできる学生ようになってもらいたいと思います。 3) あとはバランス感覚、そしてユーモアのセンスのある学生を求めています。 まとめていえば情熱には流されないクールな学生かな。

研究室	kklab (Kazuo Kishimoto Laboratory) (3F917) (現在法政大学教授の岸本直樹先生がまだ経工にいらしたころ、混同を避けるため kklab と内部では呼んでいたのが定着してしまいました)
担当教員	岸本一男 (3F1127)
研究分野	数理ファイナンス, 数理政治, 微分方程式論, 数理工学一般
先行研究	空間的投票モデルによる選挙分析, 日本の株式市場での日中価格変動モデル etc.
進路	今年の4名は, 大学院(社シス), 石油資源開発(株), 常陽銀行, 三重銀行 でした.
受入可能人数	3名(応相談)
人数構成	現在: 博士1名, 修士2年3名, 1年1名, 1年ゲスト1名, 研究生1名, 学類4年4名. 来年度予定: 修士2年1名, 2年ゲスト1名, 修士1年1名(最近来日した研究生が合格すれば+1名), 学類4年??名.
研究指導の方針	学類生: 卒研の場合は, 意欲が十分条件です. 大学院(修士): 意欲があること, 微積と線形代数が十分に分かっていること, 必要な場合に計算機が利用できること. 大学院(博士): 個別に応相談です.
一年の流れ	3月 : 歓送迎会、卒研のテーマの決定 4～6月 : 全体での基礎ゼミ 7月 : 合宿旅行 8月 : 大学院入試 9月～ : 卒論具体的テーマの決定、研究開始 11月 : 中間発表 1月 : 卒業論文発表会 2月 : 卒業論文提出 3月 : 卒業式
コメント	今年度のゼミ旅行は草津でした。週に1回昼食会と題して、皆でお弁当を食べます。机は一人ずつある予定です。

研究室名	倉田研究室（倉田久准教授）	
e-mail アドレス	kurata@sk.tsukuba.ac.jp, Tel. 029-853-5025	
HP URL	N/A	
場所	研究室: 3F1227 実験室: 3E406	
研究分野	サプライチェーン・マネジメント(SCM)、及びオペレーションズ・マネジメント(OM)。特にサプライチェーンのフレームワーク内での製販連携、つまりマーケティング活動とオペレーション活動の協調と連携の問題に関心があります。最近では家電品やPCなどを対象としてアフターセールス・サービスのモデル化を研究しています。	
過去の研究のテーマ、論文題目	基本的に上記のテーマを以前から研究しています。	
募集人数	4名	
研究室の人数	今年 学類: 3 修士: 3 博士: 0	来年(予想) 学類: 4 修士: 4 博士: 0
ゼミの頻度	毎週1回最低3時間の全体ゼミ(平日の 9:00AM 開始)、及び必要に応じて他の研究室活動を行う。	
ゼミの形式	<p>ゼミ活動の中心は<u>文献購読</u>である。また、<u>事業所見学</u>と<u>学術大会参加</u>も計画している</p> <p>文献購読の内容に関しては“年間スケジュール”を参照</p> <p>事業所見学では、生産、物流の現場を知るために工場等を訪問・見学する。現時点では日時、訪問先は未定であるが、茨城県周辺の工場への見学を予定する。</p> <p>学術大会参加では実際の IE・OM の研究に接してみる。学部生の場合は発表するのは難しいので他の研究者の報告を聞き、理解することに専念する。現時点で以下の研究大会への参加を予定:</p> <ul style="list-style-type: none"> i. オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会(JOMSA)年次大会 (2012 年5月末頃、会場: 東洋大学を予定) <p>JOMSA 大会を選ぶと思うが、次の大会も候補です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ii. 経営情報学会全国研究発表大会(2012 年 5 月 12 日 13 日、東京経済大学で開催予定) iii. 日本経営工学会春季研究大会(2012 年 6 月ごろ、法政大学で開催予定) 	

年間スケジュール	<p>【1 学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 学期には経営工学 (IE) 専攻の学生として当然理解しておくべき IE・OM の知識をインプットする。まずは次の洋書を輪読する ・ Schroeder, R.G., S.M. Goldstein, and M.J. Rungtusanatham (2010), <u>Operations Management: Contemporary Concepts and Cases (5e)</u>, McGraw Hill Higher Education. ・ 1 学期の終了時に卒研計画案をゼミ内で発表 <p>【夏休み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休み中に1、2回ミーティングを行うが、定期的なゼミは実施しない ・ 各人卒業研究の準備(例、先行研究の調査、データ収集計画の策定) <p>【2 学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 学期には Gerald Cachon, Wallace Hopp, Hau Lee, Christopher Tang, Luc Van Wassenhove など OM/SCM 分野の一流研究者の主要論文を輪読 ・ 卒業研究の進捗状況をゼミ内で毎週確認 ・ 年末に倉田研究室合同大忘年会を企画 <p>【3 学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 月末の最終発表への準備
履修しておくべき科目	<ul style="list-style-type: none"> ●OR、統計学、ミクロ経済学、コンピュータプログラミングの入門レベルの科目
必要とされる知識、能力 (アプリケーション、語学 力など)	<ul style="list-style-type: none"> ●【非常に重要】無理なく卒業するために十分な単位数を3年次末(ゼミ配属時)までに取得していること ●【重要】経営系の学術論文と英語教科書が理解できるだけの英語力 ●データ解析を行う人は SPSS に慣れておくこと
過去の学生の進学就職 比率	比率が意味を成すほどデータがありません
過去の学生の進路	平成 23 年度: 東京工業大学大学院社会理工学研究科進学、日立ソリューションズ就職
配属決定までのながれ	<p>【重要】倉田研究室希望者はまずはメールで連絡を下さい。調査票をお送りします。</p> <p>必要事項を記入のうえ調査票を期日までに返送してください。その調査票の内容と面接によってゼミ生を選考します。選考で特に重視するのは本人のやる気、希望研究テーマ、3年時までの獲得単位数の3点です。</p>

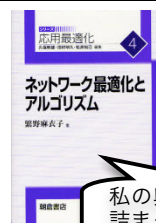
自由記述	<p>平成 22 年 9 月 1 日に筑波大学に着任しました。今回が2回目の研究室生の募集です。出来たての研究室ですので、これから学生さんと倉田研究室のブランド価値を構築していきたい考えです。その意味でも第2期生の責任は重大(?)です。個人的な希望ですが以下のような学生さんを求めます：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゼミ活動への積極的参加(出てこないと本当に不可を付けます) ・ 時間厳守(JIT です) ・ 専門分野以外にも幅広い興味と関心を持つこと ・ 規則正しい生活を送ること(具体的には早起きをすること。これが意外と重要。毎朝 5 時起きが目標。私も頑張ります。1時限の時間帯にミーティングを入れます) ・ ゼミや授業以外でも空いている時間は基本的に大学にすること(きっと Demanding な研究室になるはず。とりあえず何でもいから卒業できればいいという人には私のゼミは向いていません) ・ 夏休み中も卒研活動に従事できること(もちろん帰省は認めます。しかし、夏休みだからこそ普段できない勉強をしたい、じっくりと調査や分析に従事してみたい、という心意気が大切です。夏休み中にもミーティングを1、2回ほど実施します)
------	--

研究室名	近藤研究室		
e-mail アドレス	kondo@sk.tsukuba.ac.jp		
HP URL	http://sites.google.com/site/kondolab10/		
場所	研究室：F1131 実験室：F1002		
研究分野	<p>マーケティングデータ解析、マーケティングモデルの開発、 POS データの分析、予測モデルの研究、時系列解析、ベイズモデルの研究 全体的なマーケティングのテーマとして、時間的異質性と顧客の異質性を多 種多様な統計モデルを使って研究しています。 最近は特に「モバイルマーケティング」の研究を行っています。</p>		
過去の研究のテーマ、 論文題目	<p>「POS データにおける価格反応モデル」 「状態空間モデルによる出荷量予測モデルの改善」 「雪印乳業食中毒事件による牛乳市場への影響 - 干渉分析 - 」 「POS データによる国産ブランドと海外ブランドの分析」 「プライベートブランドに関するデータ解析」 「モバイルコンテンツに関する研究」 「顧客の異質性を考慮した購買行動分析～来店間隔とカテゴリー購買率の 関係」 「階層ベイズモデルによるショッピングバスケット分析」 「ベイズモデルにおける消費者異質性を考慮した購買間隔分析」 「マス・カスタマイゼーションに関する研究」 「ベイズモデルによる商品選択行動分析」 「インターネット証券取引の普及に関する研究」 「新製品市場と中古市場との競合分析」 「オンラインショッピングにおける購買意図と購買行動」 「新規ブランド参入に関する動学的プロビットモデルの構築と拡張」 「モバイル DM の種類によるプロモーション効果の違いに関する研究」 「状態空間表現におけるリパラメタライゼーション」 「携帯電話を利用した友人紹介制度とモバイルプロモーション効果」 「テキストマイニングを用いた動学的二項プロビットモデルにおける株価 の上下変動予測」 「重大事件の報道が消費者に与える影響」 「増税に伴う発泡酒の売り上げ干渉分析」 「多変量プロビットモデルを利用した携帯電話のサービスとマルチメディア の同時利用に関する研究」 「モバイル情報サービスの利用態度分析」</p>		
募集人数	4 人		
研究室の人数	今年 学類：5 修士：1 博士：1	来年（予想）	学類：4 修士：1 博士：1

ゼミの頻度	1 学期は週 1 回。2～3 学期は週 1 回だが、必要に応じて回数を増やす。
ゼミの形式	<p>ゼミの形式 1 学期のゼミでは特にマーケティングモデルについての講義と全員で英語の論文の輪読を行います。また、中間発表直前などでは、それぞれの発表者が発表を行い、他のメンバーはその研究に関して質問や指摘をおこない、発表者は他者の目から見て何が足りないかを認識し、また、質問者は良い質問ができるように努力します。</p> <p>週に 1 度の個人別の指導では、各自が現在の進捗状況を報告し、教員が次回までに行うべき事柄を伝えます。夏の合宿は昨年まで那須白川で行いました。</p>
年間スケジュール	<p>Please click the following URL!</p> <p>http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~kondo/lab.html</p> <p>Then, select schedule.</p>
履修しておくべき科目	マーケティング、マーケティング工学、統計学Ⅰ・Ⅱの単位（取得済み者） データ解析（履修者）
必要とされる知識、能力（アプリケーション、語学力など）	海外のサイトにいって、プログラムをダウンロードすることもありますので、使える英語の能力の持ち主を希望します。また、R などのプログラミング能力も要求します。
過去の学生の進学就職比率	<p>学就職比率</p> <p>進学率（5割）；就職率（5割）</p>
過去の学生の進路	<p>進学：</p> <p>筑波大学大学院経営・政策科学研究科（5）筑波大学大学院 システム情報工学研究科（7）；東京工業大学（1）</p> <p>（予定も含む）就職（学類）：日立製作所；日本総研；キャノン；キャノン マーケティング；大和証券；日本フィッツ；なとり；ジェトロニクス；ソニー生命；ディー・エヌ・エーなど</p> <p>就職（院生）：日本 IBM；日本総研；CGC；日立製作所；NTT 西日本； NTT 東日本；インテージ；エル・ティー・エスなど</p>
配属決定までのながれ	当研究室に興味のある方はメールをください。面接の日程を調整します。その際に自分がやりたい研究について A4 用紙に 1 枚程度でまとめてきてください。その後、研究室の先輩の話などを聞いて、後日改めて面接を行います。

研究室名	佐藤美佳研究室	
e-mail アドレス	mika@sk.tsukuba.ac.jp	
場所	研究室： 総 B705	実験室：総 B725
研究分野	データ解析、データマイニング、統計科学	
過去の研究のテーマ	データ解析の理論と応用： ソフトデータ解析、探索的データ解析、ファジィデータ解析、シンボリックデータ解析、ニューラルネットワーク、カーネル法、多変量解析、関数データ解析、クラスター分析、数量化理論、多次元データの視覚的表現法、多次元尺度構成法、非線形推定論	
募集人数	4 人程度	
研究室の人数	今年 学類：4 人 修士：7 人 博士：1 人	来年（予想） 学類：？人 修士：2 人 博士：1 人
ゼミの頻度	週 4 時間程度のゼミを全体で行い、個人指導は個別に適宜行う。	
ゼミの形式	全体のゼミでは、文献輪読、各個人の研究の進捗状況を話す。さらに、個人の研究に関連する文献の紹介をするなど行っています。個人指導は、各個人の解析結果の確認、次の段階への研究指導を行います。	
年間スケジュール	2 月から 3 月：各自、用意 4 月：各自のテーマ設定 4 月から 11 月：輪読、各自の研究発表、あるいは、各自の研究に関連する文献紹介。この間、個人指導実施。 12 月から：卒業研究論文執筆 1 月：合同研究発表会（修士、博士も含む）	
履修しておくべき科目	統計学 I、II、線形代数 I、II、データ解析	
必要とされる知識、能力	プログラムがある程度書ける。 英語の文献がある程度読める。	
過去の学生の進学就職比率	進学：50% 就職：50%	
過去の学生の進路	進学：筑波大学システム情報工学研究科、経営・政策科学研究科 筑波大学教育研究科	
	就職（学類）：日立、三井住友銀行、東京三菱銀行、NEC、ロッテ、アシックス、教員、YKK など	
	就職（院生）：三井住友銀行、東京三菱銀行、海上保安庁、yahoo、NEC、日立、JR など	
配属決定までのながれ	メールを出してもらい、その後、面接日程調整をする。興味のある研究内容、進路について聞く。研究室について詳細を説明する。質問事項を聞く。	
自由記述	データ解析が好きな学生。	

研究室名	繁野研究室 in team PhilOpt))))	
e-mail アドレス	maiko@sk.tsukuba.ac.jp	
HP URL	http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~maiko/	
場所	研究室： 3F1112 実験室：3E409 & 410 (山本研&吉瀬研と一緒に)	
研究分野	<p>数値計画, 組合せ最適化問題などに関するアルゴリズムの構築や検証, 問題構造の解析. (ネットワーク上の最適化問題が好き. 最近, サービス業におけるスケジューリング問題にはまっている.)</p>	
過去の研究のテーマ、論文題目	<p>今年のテーマ： 「手術室スケジューリング (機材制約抽出&スケジューリングアルゴリズム)」 「汎用的なスタッフスケジューラ作成」「数独・カックロの問題構造」(オークションに関する数値実験, ネットワーク構造解析 etc もやりたいテーマですが, 今年は学生さんの興味から以上になりました.) 過去のテーマは web 参照のこと</p>	
募集人数	4 名程度	
研究室の人数	<p>今年 学類：4 修士：4 博士：2</p> <p>※今年の夏～秋に院生 6 人がそれぞれ, 学会などで研究発表ができたのは, とってもうれしいことです!</p>	<p>来年 (予想) 学類：4 修士：2 博士：2</p>
ゼミの頻度	<p>卒研ゼミ:週1回. 1～2コマ 輪読ゼミ:1 学期週1回. team PhilOpt)))) (数理工学系の研究室) 合同. 夏休みを利用して合宿あり. その他, 学生主体の輪読ゼミ多数, 自由参加.</p>	
ゼミの形式	<p>卒研ゼミでは週一回, 何かしら報告をしてもらいます. 輪読ゼミはテキストを分担して読んで, 発表します.</p>	
年間スケジュール	<p>4～6月 研究テーマ探し. テーマを決めて, 基礎部分の勉強. 7月 合宿にて研究発表 8～11月 研究内容によって, 文献調査や計算機実験など. 11月 中間発表 (経工全体). 仕上げに向かってラストスパート. 12～1月 卒業論文執筆, 最終発表. その他, 研究室飲み会など年間を通してあるらしい. . .</p>	
履修しておくべき科目	<p>特になし (研究で必要な知識は一から勉強しましょう.)</p>	



私の興味がぎゅぎゅっと詰まった一冊

必要とされる知識、能力（アプリケーション、語学力など）	数学か計算機（あるいは、パズル的なもの）に興味があるとテーマを選びやすい
過去の学生の進学就職比率	年によって違いますが、半々くらいでしょうか。
過去の学生の進路	進学：社会システム工学専攻，経営・政策科学専攻の他にも他研究科や他大学大学院もあり。
	就職（学類）：シンプレクス・テクノロジー，りそな銀行，地方公務員など
	就職（院生）：日立製作所，日立ソリューションズ，三井住友海上システムズなど
配属決定までのながれ	当研究室に興味を持った人はメールをください。面接の日程を調整します。その際に準備するものではありません。面接は気楽にどうぞ。
自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ゼミを無断欠席しない，見栄を張ってウソ（出来ていないことを出来ましたと言っちゃう）をつかないなどの常識があればOKです。自主的に研究する人大歓迎。研究室の雰囲気は直接先輩に話をきくのが一番だと思います。こっそり聴いて下さい。（週末に仕上げてね～といきなり課題が出る，嘘の証明のメモがメールで送られてきて混乱させられる，現地調査に突然放り出されるなどなど．．．） ➤ 実験室横のパネルに先輩達の研究内容紹介があります。 ➤ 横着するために，考えることを惜しまない人，向いているかも．．． ➤ よく遊びよく学べ

説明会当日は、共同研究打合せのために欠席します。すみません。

最近始めたこの共同研究，ほどよい緊張感があって学生のころに戻ったようでわくわくドキドキしています。

	5. 「国工場立地動向の構造分析」 6. 「家計貯蓄率に関する国際比較」 7. 「テクノロジー・ビジネス・インキュベータにおける起業支援に関する日米比較研究」 8. 「現代大企業病の構造分析」 9. 「企業診断システムの構築」 10. 「Development of Forecasting Model for Foreign Exchange Rates」 11. 「イントラネットにおけるウイルス感染制御戦略の動的解析」 12. 「セミ・マルコフ予防保全モデルの動的解析と最適保全政策」 13. 「移動体通信によるインターネット活用に関する国際比較」 14. 「日本情報サービス企業の国際的事業展開と投資評価ーリアルオプションによるケース研究ー」 15. 「消費者行動に基づく商品ブランドの構造分析」 16. 「行政組織の電子化に関する日本・韓国比較研究」 17. “Dynamic Analysis of a Reward Process Defined on a Cyclic Renewal Process with Application to Maintenance Problems” 18. 「音楽CD市場における競争力特性の分析」 19. 「イノベーション管理過程のモデル分析」 20. 「ウェブアクセスログデータを用いた閲覧者の行動解析」 21. “The Effect of the Learning Curve on Production of New Products with Short Life Cycle” 22. 「中国自動車産業発展過程の分析」 23. 「アクセスログデータに基づく重要顧客の “リアルタイム” 判別」 24. “A Unified Multivariate Counting Process: Theoretical Analysis and Applications” 25. 「企業診断システムにおける階層間ギャップ分析」 26. 「日中移動通信キャリアの経営戦略分析」 27. 「EC サイトにおける CRM 推進システムの開発」 28. 「巨大地震による死者率の評価式」 29. 「不動産賃料推定モデルの構築」 30. 「スポーツクラブ経営の意思決定モデル分析」 31. “Collateralized Debt Obligation Approach for Newsboy ProblemーWould the notorious CDO be a genuine financial tool for managing risks?ー” 32. 「企業診断システム OMAC における組織特性分析・重篤度進行分析」 33. 「マクロ経済要素を取り入れたヨーロッパ・コールオプション価格計算法の開発」 34. 「EC サイトにおける CRM サポートエンジンの開発」 35. 「情報非対称性と誘因非両立性を伴う最適投資配分問題」 36. 「マクロ経済状態を考慮した債券バリア・オプションの価格計算アルゴ
--	--

	<p>リズム構築」</p> <p>37. 「通信販売サイトにおける優良顧客・商品判別アルゴリズムの開発」</p> <p>38. 「半導体部品生産工程におけるチョコ停対応待ち時間削減のための OP 巡回ルールの発見」</p> <p>39. 「中古車オークションにおける落札価格予測アルゴリズムの開発」</p> <p>40. 「化粧品市場におけるネットロコミの影響力について」</p> <p>41. 「DVD レコーダー市場における e-クチコミの影響」</p> <p>42. “Analysis of Revenue-Sharing Contracts: Maximizing the Expected Profit and VaR Approach”</p> <p>43. 「半導体部品生産システムにおける最適装置配置・OP 巡回ルールに関する研究」</p> <p>44. 「EC サイトにおける CRM 推進システムの構築（顧客判別アルゴリズムの段階的適用）」</p> <p>45. “Enhancement of e-Commerce via Mobile Access to the Internet”</p> <p>46. 「インターネットにおけるビデオトラフィックモデルの構築・解析」</p> <p>47. 「マルコフ連鎖に基づくネット回線モデルの解析と最適設計」</p> <p>48. 「ベイジアンネットワークを用いたインターネット CRM モデルの検討」</p> <p>49. “Development of Recommendation Engines Based on Color of Products”</p> <p>50. 「EC サイトにおける購買履歴データの時系列分析」</p> <p>51. 「階層間ギャップを巡る組織症候群診断アルゴリズムの開発」</p> <p>52. 「企業診断システムにおける合併症分析」</p> <p>53. 「CAEP に基づく多段階判別法の開発とクレジットデータ分析への応用」</p> <p>54. 「新聞売り子問題に対する VaR 問題の解析と CDO アプローチの応用」</p> <p>55. 「半導体生産工程におけるコックピットシステムに関する研究」</p> <p>56. 「百貨店のカード会員によるアンケート回答結果とそのカード利用履歴を用いた顧客類型化」</p> <p>57. 「Type A Behavior × Locus of Control の下位次元構築及びシミュレーション分析」</p> <p>58. 「不動産賃料評価モデルの開発」</p> <p>59. 「店舗利用数の違いによる顧客特性の判別アルゴリズムの開発とマーケティング戦略の提案」</p> <p><u>学類</u></p> <p>1. “Optimal Approach for Organizing YMCA Camp Groups”</p> <p>2. 「アジア主要港におけるインフラ及び荷役サービス、港湾料金とコンテナ量との相関に関する考察」</p> <p>3. 「IT 関連政策・法整備の日米比較」</p> <p>4. 「ベンチャー・ビジネスの国際比較」</p> <p>5. 「CRM のための商品カテゴリ分析」</p>
--	--

	6. 「CRM のための商品ブランド分析」
	7. 「防衛的保全の最適政策に関する確率解析」
	8. 「野球におけるチームワークの効果分析」
	9. 「サッカーにおけるチームワークの効果分析」
	10. 「チームワークの効果分析」
	11. 「カテゴリ選好に基づくユーザーのブラウジング構造解析」
	12. 「包括的な顧客ロイヤリティ指標の開発」
	13. 「サッカーにおけるチームワークの効果分析」
	14. 「アーティスト分析に基づく CD 市場トレンド分析」
	15. 「到着顧客の誘導方法による系内数の相関構造の比較分析」
	16. 「ジャンル間における顧客の購買パターン分析」
	17. 「日本とマレーシアのクレジットカード市場比較」
	18. 「自社物流型と 3PL 型における物流コスト比較モデルの構築」
	19. 「GPSS による起業家生成シミュレーションモデルの構築と日米欧の国際比較」
	20. 「大統領演説が示唆すること」
	21. 「国内自動車市場におけるクラス別比較分析」
	22. 「オペレーショナルリスクと保険」
	23. 「洗剤マーケットのブランド」
	24. 「ジャンル間における顧客の購買パターン分析」
	25. 「海上輸送における比較分析」
	26. 「パーツ緊急輸送システムにおけるコスト削減」
	27. 「生産基地の海外移転とスケルトン輸入」
	28. 「見込み型・受注型製品の混合ジョブショップスケジューリング」
	29. 「web アクセスデータを用いたユーザ行動分析」
	30. 「Value-Added logistics におけるコスト削減」
	31. 「企業診断システム開発における主流乖離分析」
	32. 「FDC におけるデータ解析」
	33. 「二階層での Revenue-Sharing 契約の分析」
	34. 「企業診断システムによる合併症分析」
	35. 「EC サイトにおける顧客特性予測」
	36. 「在庫費用を考慮した Revenue-Sharing Contracts によるサプライチェーンの最適化」
	37. 「企業診断システム開発における主流乖離分析」
	38. 「企業診断システムにおける階層間ギャップ分析～サンドイッチ設問分析～」
	39. 「スケルトン戦略における Revenue-Sharing の有効性の検証」
	40. 「セミ・マルコフ過程におけるエルゴード流率・エルゴード退出時間・エルゴード滞留時間の解析」
	41. 「中古車オークション市場におけるマーケティング戦略」

	42. 「企業診断システム OMAC による症候群の罹患度進行シミュレーションモデル構築」
	43. 「EC サイトにおける購買回数別の顧客購買行動分析」
	44. 「EC サイトにおける重要顧客判別」
	45. 「マクロ経済状態を考慮した債券ノックアウトオプションのシミュレーション分析」
	46. 「企業診断システム OMAC による症候群罹患度進行シミュレーションの構築」
	47. 「マクロ経済要素を取り入れたアジア・オプションの価格シミュレーション」
	48. 「CRM サポートエンジンにおける相関を用いた商品抽出アルゴリズムの開発」
	49. 「半導体部品生産工程におけるダウンタイム削減に向けた製品要因の視点からの提言」
	50. 「スポーツクラブ経営における概念モデルの確立」
	51. 「EC サイトにおける購買顧客の行動分析」
	52. 「サッカークラブマネジメントにおける地方自治体へのアプローチに関する考察」
	53. 「企業診断システム OMAC における行動特性判別・重篤度進行シミュレーション」
	54. 「半導体製造工程におけるチョコ停 VS 人件費の費用対効果分析」
	55. 「サッカークラブマネジメントにおけるサポーターへのアプローチに関する考察」
	56. 「半導体製造工程におけるチョコ停要因発見のための判別手法についての研究」
	57. 「半導体生産工程におけるチョコ停発生によるダウンタイムの解析」
	58. 「検索エンジンにおけるランク付け重要項目に関する考察」
	59. 「相互評価設問を用いた人間特性割合の推定」
	60. 「企業診断システム開発における評価指標再定義と主流乖離分析」
	61. 「連続時間マルコフモデルの数値解析による医療物流の最適化」
	62. 「e-WOM の他者からの評価予測モデル構築」
	63. 「チーム診断システムの構築」
	64. 「共分散構造分析を導入した半導体製造工程におけるチョコ停要因発見のための研究」
	65. 「新規でリボルビング払いを利用する顧客特定モデルの構築」
	66. 「ビジネスゲームにおける Type A 行動者の行動分析」
	67. 「組織診断システム開発における主流乖離分析」
	68. 「クレジットカード休眠阻止における顧客判別モデルの研究」
	69. 「e-WOM を用いた輸入アメリカ映画の興行収入予測モデルの構築」
	70. 「クレジットカード加盟店の利用パターンの抽出によるカード休眠化

	防止の研究」 71. 「遺伝的アルゴリズムを用いたクレジット購買履歴の分析」 72. 「時系列を考慮した半導体工場におけるチョコ停発生頻度に関する変動パターンの分析」 73. 「企業診断システム OMAC における階層間ギャップと重篤度の関連性分析」 74. 「ウェーハ工程における歩留まり向上のための要因分析」 75. 「ベイジアンネットワークを用いた半導体部品生産工程におけるチョコ停問題の分析」 76. 「ロジットモデルを用いたリボルビング払い利用顧客判別モデルの構築」 77. 「ビジネスゲーム空間における Internal 行動者の意思決定への影響」 78. 「e-WoM を用いた従来型携帯電話市場分析」 79. 「テキストマイニングによるスマートフォンの市場分析」 80. 「半導体生産工場の試験工程における生産スケジューリング」	
募集人数	10 人程度	
研究室の人数	今年 学類：8 人 修士：25 人 博士：11 人	来年（予想） 学類：10 人 修士：15 人 博士：10 人
ゼミの頻度	テーマ別にチームを結成 チームごとに週 1・2 回のゼミを開催、企業との合同ゼミ多数あり 共通テーマとして、中国動向調査ゼミ・技術動向調査ゼミ・英語ゼミ・プレゼンテーションゼミ等を月に 1 回、全員参加で開催	
ゼミの形式	学生発表、論文購読、先生による講義等	
年間スケジュール	4 月～6 月：卒論テーマの決定 7 月：テーマに関する論文調査・基礎分析（データがあれば） 8 月：夏期合宿 9 月～11 月：分析（データ収集・基礎分析、モデル開発） 12 月～：論文執筆	
履修しておくべき科目	特になし	
必要とされる知識、能力（アプリケーション、語学力など）	特になし	
過去の学生の進学就職比率	（修士に進学する人）：（学類を卒業して就職する人）＝5：1	
過去の学生の進路	進学：筑波大学システム情報工学研究科、ウィスコンシン大学、アムステルダム自由大学	

	<p>就職（学類）：本田技研工業株式会社、丸紅株式会社、全日本空輸株式会社、東芝情報システム株式会社、ピーアーク株式会社、NTT データ株式会社、株式会社草津温泉フットボールクラブ、株式会社 NTT ドコモ、株式会社テレビ東京、株式会社シニアコミュニケーション、アビームコンサルティング株式会社、リクルート、エンジャパン、竹園東中学校、東京三菱UFJ銀行、山形銀行、General Electronics、富士ゼロックス、東京三菱UFJ証券、ドイツ銀行、みずほ銀行、商船三井、三井倉庫、イトクロ、山崎製パン、東京都庁、ワークスアプリケーションズ、GREE、出光興産、楽天、リンクアンドモチベーション、三井住友海上火災保険</p> <p>就職（院生）：三井生命保険株式会社、日本フィッツ株式会社、株式会社東京商工リサーチ、アクセンチュア株式会社、三井物産株式会社、豊田通商株式会社、オリックス株式会社、住友商事、オラクル、サントリー、大和証券SMBC、東京三菱UFJ銀行、山形銀行、GE、富士ゼロックス、東京三菱UFJ証券、Morgan Stanley Japan、ソニー、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、日本経済新聞、三井住友銀行、日本総研、新日本製鉄、大和証券、大和証券SMBC、IBM ビジネスコンサルティング、阪和興業、アイエックス・ナレッジ株式会社、クラヤ三星堂、花王、三菱東京UFJ銀行、日立製作所、アクセス、QUICK、住商情報システム、農業協同組合連合会、リコー、本田技研、太陽誘電モバイルテクノロジープロダクツ、電通、日本電気、日本HP、リクルート</p>
配属決定までのながれ	何を学びたいかに関するエッセイと面接による
自由記述	<p>明るく楽しく元気に勉強する意欲に燃えている人</p> <p>修羅場で通用する人間力を鍛えたい人</p> <p>賢くなりたい人</p> <p>博士号を取得して、モノを考えるプロになりたい人は特に歓迎</p> <p>時々、美味しいものが食べたい人</p>

研究室名	高木英明	
e-mail アドレス	takagi@sk.tsukuba.ac.jp	
場所	研究室：3F1013 実験室：3F1015	
研究分野	サービス・サイエンス、待ち行列システム、確率過程モデル 情報通信ネットワーク	
平成 21-22 年度の卒業 研究の論文題目	サービス中でも離脱が起こる待ち行列モデル 献血における待ち行列に関する考察 類別状況を用いた打者・打順の評価手法について 実際のトラヒックデータを用いたコールセンターのモデル化	
募集人数	4 人程度	
研究室の人数	今年 学類：1 修士：8 博士：1	来年（予想） 学類：3 修士：6 博士：1
ゼミの頻度	1 週間に 1 回（半日）	
ゼミの形式	4～12 月 輪講 9～12 月 卒業研究についての議論	
年間スケジュール	4～7 月 輪講による基礎的勉強 5 月 筑波山ハイキング 9 月 卒業論文テーマの決定、研究開始 11 月 研究の中心的部分を終える。 12～1 月 卒業論文執筆	
履修しておくべき科目	微積分、統計学、応用確率論、応用確率過程	
必要とされる知識、能力（アプリケーション、語学力など）	微積分・確率論・応用確率過程等を用いて、現実のシステムの数理的モデルを作成し、解析し、その結果の数理的・社会的意味を解釈できる能力（を養う）。	
過去の学生の進学就職比率	30%程度が大学院進学、他は就職	
平成 21-22 年度の学類 卒業生の進路	PricewaterhouseCoopers、日本赤十字、日本情報通信、社会システム工学専攻	
配属決定までながれ	メールをください→面談→受入れ内諾→押印	
自由記述	学類 4 年次や大学院 1 年次では、英語の文献を読んで内容を理解し、それに基づいて、自分の言葉で、研究課題や成果を説明できるようになることが大事と考えますので、確率過程モデルの解析に関する基礎的な英語の本を輪読しながら、内容について議論するゼミを週に 1 回開いています。最初は大変ですが、1 年後には、英語の文献を、内容を理解しながら読むことができるようになります。卒業論文や修士論文のテーマが決まったら、個人ごとに、研究内容と論文の書き方について、指導します。	

研 究 室名	竹原研究室（竹原浩太助教）
e-mail ア ド レ ス	ktakehara@sk.tsukuba.ac.jp
HP URL	http://www.sk.tsukuba.ac.jp/SSM/faculty/profile5/rtvprof.cgi?uid=dxgnxrunenu&secret=rot
場所	研究室：3F1004 実験室：
研 究 分野	1. 金融工学 2. 数理ファイナンス 3. コーポレート・ファイナンス 4. 応用確率解析
過 去 の 研 究 の テ ー マ、論 文 題 目	平成 24 年度より新規に開設される研究室です。 主にファイナンスや応用確率解析に関するテーマ指導を予定しております。 今年度から参加される皆さんの研究テーマが、 来年度以降この欄に載り後に続く学生への指針となります。頑張りましょう！
募 集 人数	原則 4 名まで
ゼ ミ の 頻 度	基本的には週 1 回ゼミを行うが、希望者がいれば加えて数学に特化したサブゼミを週 1～2 回 程度行う予定あり。
ゼ ミ の 形 式	配属メンバーの希望も聞いた後に決定するが、メインのゼミでは基本的にファイナンスに関す る（難易度ではなく、内容面で）基礎となるような文献の輪読を行う。洋書の可能性もある。 サブゼミでは日本語の教科書を輪読する。 年度後半では、進捗に応じて卒業研究に関する発表を行う。
必 要 と さ れ る 知識、 能力	数学については、微積分や線形代数，確率論，数理統計に関する基礎的な知識が必要であると思 われる。 また数値計算の必要が生じる可能性が高いため Excel や簡単なプログラミング言語の知識はあ った方が望ましいが，これはゼミに入ってからでも並行して学ぶことは可能である。 文献は洋書が多くなる可能性もあるため，（辞書を併用しながらでも良いので）それらを読め るだけの英語力は必要であると考えてもらいたい。
配 属 決 定 ま で の な がれ	ktakehara@sk.tsukuba.ac.jp までメールをお願いします。 その後研究室で面接を行った後，配属の可否を決定したいと思います。

<p>自由記述</p>	<p>本年度より新たに開講される若い研究室です（ちなみに私も社会工学類最年少の教員です）。そのため、これから配属される皆さんと一から研究室の雰囲気を作っていくことになります。個人的には筑波大学の学生さんと一緒に研究できることにとてもワクワクしておりますので、意欲の高い学生が来ることを期待しています。</p> <p>中でも、特に次のことを重視したいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とにかくめげずに頑張る姿勢（勉強も研究も、スムーズに行くことなどほぼありません。） ・とことん突き詰める姿勢（わからないことをわからないままにしておく、確認もせず教科書の記述を鵜呑みにする、といった態度は多分怒られます） ・密度の濃い人間関係（高いレベルでの勉強・研究を行っている、自然と人間関係は密接になると思います。ドライに片手間でゼミに参加したい人は向いていないかもしれません。） <p>ファイナンスは非常に学際色豊かで歴史的にも様々な分野（経済、数学、物理、OR、製鉄・化学、金融実務 etc...）の人間が活躍してきましたし、私自身も経済学部卒→経済学研究科修士・博士課程という一見文系の経歴を辿りながら、その中で応用確率解析という数学の武器を手にした分野と戦ってきました。</p> <p>そういったことから、ファイナンスそのものだけでなく、数学や OR・コンピュータといった様々な興味を持つ学生さんにとって等しく面白い勉強・研究活動ができると思います。</p> <p>とにかく、今は私自身がとても楽しみです。</p> <p>配属を希望される学生さん、これから一緒に頑張っていきましょう！</p>
-------------	---

研究室名	張 研究室 (分散処理、通信ネットワーク研究室)	
e-mail アドレス	ybzhang@sk.tsukuba.ac.jp	
HP URL	http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~ybzhang	
場所	研究室： 3F1108	実験室： 3E311
研究分野	情報処理、通信ネットワーク	
過去の研究のテーマ、論文題目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 携帯電話を利用した位置情報システムの開発と構築 ・ 無線通信ネットワークにおける効率的な経路決定と資源管理 ・ GPS タクシー配車履歴データの可視化 ・ 携帯電話を用いた e ラーニングツールの研究 	
募集人数	4 人まで	
研究室の人数	今年 学類：3 人 修士：2 人 博士：0 人	来年（予想） 学類：？人 修士：6 人 博士：？人
ゼミの頻度	基本的には週 1 回全体ゼミを行います。そのほか、必要に応じて、週 1 回勉強会があります。また、卒研、修論のテーマについては、個人指導をも行います。	
ゼミの形式	専門書・文献の輪講を行ったり、1 回に 2 人ぐらい研究テーマについて深く議論したりします。ここで、発表する能力の養成、他人の研究内容の把握、コメントが期待されます。	
年間スケジュール	夏休み前までは、研究に必要な基本的な知識を勉強します。9 月までに各自の研究テーマを定め、12 月までに論文を完成します。	
履修しておくべき科目	計算機科学、情報ネットワークなど情報系の基礎科目を履修したこと	
必要とされる知識、能力	Java、C などのプログラミング言語を知っていること。英語、数学が嫌いではないこと。	
過去の進学就職比率	進学 60%、就職 40%	
過去の学生の進路	進学：筑波大学大学院システム情報工学研究科、経営政策科学研究科	
	就職（学類）：日本 IBM、NTT データ、JCB、地方公務員	
	就職（院生）：NTT、NTT ドコモ、日立製作所、日本総研等	
配属決定まで	まず、アポイントメントをとって、面談します。そこで、研究内容、研究課題を紹介し、自分のやりたいことについて聞きます。	
自由記述	基礎理論の研究または実システムの開発、そして、その両方に興味のある学生を大歓迎します。これからの情報システムの設計や資源管理法などの理論的研究から既存技術によるシステムの開発まで基本的には自分の好きなテーマを決めて結構です。	

辻ファイナンス研究室

私の研究室では、自己の専門であるファイナンスの中で、以下のような領域で研究を行っています。

- ・アセット・プライシング
- ・コーポレート・ファイナンス
- ・行動ファイナンス
- ・フィナンシャル・リスク・マネジメント

上記の領域において、私においては、どちらかといえば、技術の開発との比較上理論や仮説の検証、真理の探究・解明により強い興味があります。

1. 研究指導の方針

学類においては、各自の興味に応じて適切と思われる英語文献を決め、それらを通読しながら、内容を正確に理解した後、データ加工・データ分析、考察・議論を経て、最終的には各自が自分で研究内容を卒業論文としてとりまとめられるよう指導します。

2. 必要とされる知識、能力および資質

ファイナンスという分野にどの他の分野に対するよりも強い興味を持っていることは言うまでもありませんが、ファイナンスに関する知識のほかに、経済学、財務会計学、統計学、計量経済学の基礎知識も必要です。研究にあたっては、標準的な英語文献を読みこなせる能力が必要です。また、大量のデータを限られた時間で間違いなく正確に処理しなくてはなりませんし、論文としてのとりまとめに際してはしっかりと文章力も必要です。

現実のデータを間違いなく処理・分析するためには、単に機械的にデータを処理するのではなく、状況に応じての加工や臨機応変な判断が必要で、これには様々な関連知識や経験が必要とされるため、一般にはなかなか難しいようです。

求められる資質・性格としては、素直さ、誠実さ、忍耐強さ、たくましさが必要であり、最終的には指導に素直に従いつつ研究を自己完結させる強固な意志と粘り強い取り組みが求められます。加えて一定程度のコミュニケーション能力や質問力も必須です。また、数学的な厳密性やモデルの細部に拘るよりは、どのような結果が得られるのか、に関心がある人の方が私の研究室には向いています。さらに、大学とは受動的にではなく主体的に学んでいくところであるということが理解できる人を歓迎します。

3. 募集について

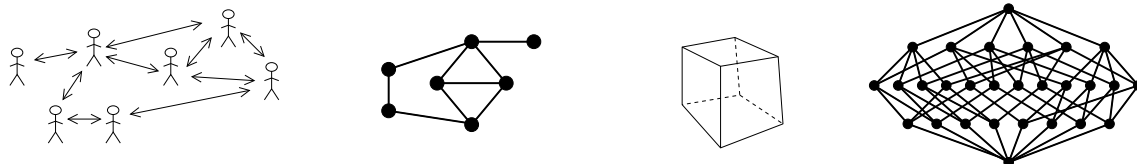
募集する学類生については上限 3～4 名程度を目途に面談にて決定したいと考えており、上記の要件を満たす人は歓迎します。希望する人があれば、アポイントメントをとり、成績表のコピーを持参のうえ面談を受けてください（成績の良し悪しは必ずしも関係なく、科目の履修状況等全体的な状況を見て面談をしたいという趣旨です）。卒業研究のトピックスは、ファイナンス分野のインベストメント、コーポレート・ファイナンスまたは行動ファイナンスの実証研究の中から選択します。

*その他教員情報が必要であれば、

<http://www.sk.tsukuba.ac.jp/SSM/faculty/management.html> からリンクを辿り参照してください。

研究課題：離散的システムの構造の探求

みなさんは、これまでの授業の中で、おそらくさまざまな場面において、問題をモデル化する際に種々の離散的なシステムに出会ってきているはずです。例えば、工程のスケジューリングや配送計画などのモデル化、人と人のつながりの分析、アルゴリズムの記述、通信ネットワーク、地図、などなど。表現方法はグラフやネットワーク、フロー図、空間中の点集合、半順序集合、集合族、…、など様々ありますが、「有限個の要素の間の関係」を表すものはすべて離散的システムです。このような離散的システムの構造を明らかにすることが我々の目標です。(このような離散的な構造に関する研究は『組合せ論』と呼ばれる数学の一分野です。)



研究のスタンス

基本的には主に理論的な研究の展開を求めます。つまり、問題を離散的システムにモデル化して解くことによって実用上の役に立てる、ということは我々の研究目標ではありません。想定されるモデルにはどのようなものがあるのか、そのモデルはどのようなよい構造を持っているのか、それがどのように計算の役に立つのか、そのモデルはどのような本質的構造を捉えているのか、というような理屈を明らかにしたい。例えば、ある問題をモデル化した場合、または、ある問題を解く方法があった場合、その構造はどのように一般化できるのか、ということを考えてみます。すると、具体的な特定の問題だけを考えていたときには見えなかった本質的な構造が自ずと明らかになってくるはずです。このような本質的な部分を突き詰め、最終的には普遍的な真理を見出したいわけです。実用上の応用というようなすぐに失われる目先の有用性ととらわれることなく、永続的に普遍性を持ち得る真理を見据えることが我々の学問の目標です。

研究テーマの選び方

来年度の学生向けには、まずは春から秋ころまでしっかりと基礎的なテキストを読み進めてもらうことを考えています。(グラフ理論、数え上げ組合せ論、組合せ最適化、あたりの選択肢の中から選択。)そして、読み進める過程の中から興味のある問題を探し出し、自分の研究テーマを見定めてもらいたいと思います。(あらかじめ「これを研究したい」というテーマがある場合は、それに沿って一緒によい研究テーマの形を探ることになります。応相談。)

研究手法は？

基本的には理論的な研究になるので、文献を一所懸命読み、一所懸命考えて、新しい理論を考え出す、ということになります。その他に、プログラミングが出来るのであれば、計算機で実験的に考察するような研究方法もあります。計算機上での計算方法を工夫することも面白い研究テーマになり得ます。

いずれにしても、ゼロからスタートして、自分で研究テーマを見出し、それなりの取り組みを行なうには、1年間自分の研究について考え続ける努力を継続することが必要です。しかし、逆に言うと、そのような努力を続ければ必ず何かを見出せる研究分野でもあります。

その他：基本的には週1回程度のゼミを毎週やっていきます。この他に、山本・吉瀬・繁野研究室と合同の輪読ゼミや夏のゼミ合宿で他の研究室の仲間と一緒に遊ぶことができます。

研究室紹介（藤原良叔）

藤原 良叔 (Ryoh Fuji-Hara)

研究室：F1124 Phone&Fax: 5088

実験室：E404e

E-mail: fujihara@sk.tsukuba.ac.jp

WWW: <http://www.sk.tsukuba.ac.jp/~fujihara>

担当授業：シミュレーション，経営工学情報実習，情報技術実験など

研究分野：離散数学とその応用；組合せ理論，離散数学といわれている分野は近年爆発的に応用が進んでいる．とくに携帯電話や無線 LAN の符号，暗号理論，また金融工学や DNA 検査への応用などが盛んで，それらの応用を中心に研究している．

卒業研究：卒業研究は必ずしも教員が行っているような最先端テーマの研究を行う必要はなく，能力と興味にあったテーマを選べば良い．過去には次のようなテーマがある．

- Ajax の応用
- 誤り訂正線形符号の一構成法
- 金融工学で使う超一様分布点集合の研究
- インターネットのセキュリティに関する研究
- ソフトウェア検査に関する研究．

必要とされる知識、能力：

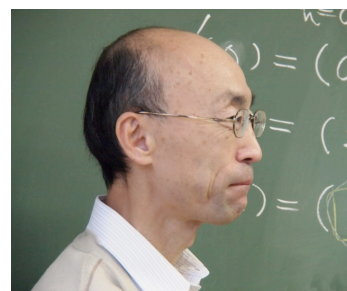
線形代数，確率統計は基本的な理解が得られていること，プログラミング言語を少なくとも 1 つこなせること．

その他：

大学院を希望する学生は，4 年生のときは，焦らずに，大学院でより本格的な創造的な仕事をするための準備に集中することを勧める．

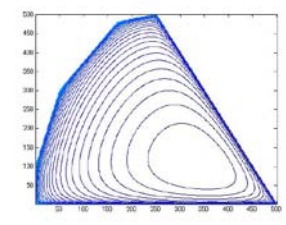

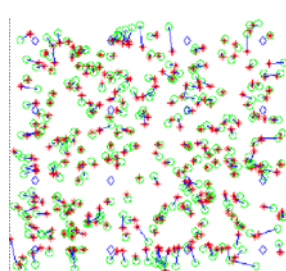
研究室名	繆研究室	
e-mail アドレス	miao@sk.tsukuba.ac.jp	
HP URL	http://www.sk.tsukuba.ac.jp/SSM/faculty/profile5/rtvprof.cgi?uid=gmio6&secret=yes	
場所	研究室：3F1006 実験室：3E404(E)（藤原研究室+八森研究室と共同使用）	
研究分野	組合せデザイン理論 情報科学：符号理論、通信方式 情報セキュリティ：電子著作物の海賊版防止、暗号理論、認証方式 遺伝子情報解析：モチーフ発見アルゴリズム、グループ検査アルゴリズム	
過去の研究のテーマ、論文題目	「RSA 暗号系の実装および電子署名への応用」 「イモビライザ用認証方式」 「釣合型不完備ブロック・デザインに基づいた非適応的グループ検査の識別アルゴリズム」 「マルチメディア指紋におけるアンチ結託符号および追跡アルゴリズム」 など	
募集人数	原則 4 人	
研究室の人数	今年 学類： 0 修士： 1 博士： 2	来年（予想） 学類： ? 修士： 0 博士： 2
ゼミの頻度	基本的に週一回の全体ゼミと週一回の研究発表を行います。個人指導の頻度は研究の進行状況により違います。夏休みを利用してほかの大学の研究室との合宿も計画しています。	
ゼミの形式	人数にもよりますが、基本的には全体ゼミで文献の輪読を行い、自分の研究を発表し、他のメンバーの研究について質問や指摘をすることによって他人の研究にも関与できるようにします。研究テーマを決めた後の個人指導時間には、現在の進行状況の報告や今後の作業の確認を行います。最後は卒業論文の書く期間です。	
年間スケジュール	研究テーマ（今年度指導予定課題は電子著作物の海賊版防止や遺伝子情報解析アルゴリズムである）により毎年変わりますが、基本的には下記の通りです。 2 月――マルコフ連鎖モンテカルロ法や期待値最大化アルゴリズムなどを勉強する。 6 月――7 月 皆さんの興味と進路に合わせて相談しながら研究テーマを確立し、卒業研究を進める 8 月――9 月 合宿にて研究内容の一部を発表する。 10 月――11 月 卒研に本格的に突入。経営工学専攻の卒業研究中間発表会。 12 月――1 月 卒業論文の仕上げ。卒業論文発表会。	
履修しておくべき科目	情報ネットワークや確率統計、線形代数、微分積分、シミュレーション、最適化など数理情報関係の科目の単位を取得していることが望ましい。	



必要とされる知識、能力(アプリケーション、語学力など)	<p>数学 and/or コンピュータに自信を持つこと。</p> <p>英文の文献が読める程度の英語力を持つこと。</p>
過去の学生の進学就職比率	進学 40% 就職 60%
過去の生の進路	進学:筑波大学システム情報工学研究科
	就職(学類):ヤマハ発動機等
	就職(院生):情報通信研究機構研究員、海外大学教員等
配属決定までのながれ	当研究室に興味を持った人はメールをください。面接の日程を調整します。その際に自分がやりたい研究、自分の長所・短所、進学か就職か、などについて説明して下さい。
自由記述	<p>以下のような人を歓迎します：</p> <p>明るく楽しくやる気がある人</p> <p>自己管理をしっかりし、時間を大切にする人</p> <p>常に「なぜ？なぜ？なぜ？」のように自分が納得するまで頑張る人</p>



研究室名	<i>team PhilOpt</i>))))	
e-mail アドレス	yamamoto@sk.tsukuba.ac.jp	
HP URL	http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~yamamoto/index.html	
場所	研究室：F1007 (ex.5001) 実験室：E410 (ex.5395)	
研究分野	数理計画、数理工学、オペレーションズ・リサーチ 上記のサイトに最近の論文の pdf ファイルを置いてありますので、見てください。	
過去の研究のテーマ、論文題目	<p>卒業論文と修士論文のテーマを並べます。私の研究は上のサイトを見てください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 提携構造に制限のあるゲームの解とコアの関係 指定された安定マッチングを Gale-Shapley アルゴリズムに出力させる選好順序の存在とその構成 選択科目のある試験による選抜方法 複数の順序づけを 1 つの順序づけにまとめる方法のゲーム理論的裏付け 投票力指数の計算アルゴリズム 線形順序問題のラグランジュ緩和を用いた近似アルゴリズム クリーク分割問題のラグランジュ緩和を用いた近似アルゴリズム 	
募集人数	4 人位	
研究室の人数	今年 学類：2 修士：4 博士：1	来年（予想） 学類：? 修士：3 博士：2
ゼミの頻度	下の「ゼミの形式」と「年間スケジュール」参照	
ゼミの形式	7 月頃までは <i>team PhilOpt</i>)))) の合同ゼミと、それと並行して山本研のゼミを行います。 合同ゼミ：テキストを決めて 4 研究室の 4 年生が順に発表、1 時間半から 2 時間/週 山本研ゼミ：大学院生も含めて個別のテーマについての発表と討論	
年間スケジュール	2, 3 月 1 月末に面接して、2, 3 月の宿題を出します。 4, 5, 6, 7 月 吉瀬、繁野、八森研究室と合同の <i>team PhilOpt</i>)))) の 4 年生合同ゼミを週に 1 回 山本研のゼミを週に 1 回、指導は随時 合同合宿（場所未定） 9, 10, 11 月 山本研のゼミを週に 1 回 進捗状況の報告と指導は随時 12 月 年末に卒業論文初稿提出	

履修しておくべき科目	数理計画、計算機科学
必要とされる知識、能力（アプリケーション、語学力など）	<ul style="list-style-type: none"> • 英文の論文が読める程度の英語力 • コンピュータの言語を何か1つ • 社会工学類で教えている程度の線形代数、微分積分、統計学、確率論に関する理解
過去の学生の進学就職比率	ここ数年の進学比率は50%くらい。
過去の学生の進路	進学：筑波大学システム情報工学研究科
	就職（学類）：YKK、NTT
	就職（院生）：（修士）帝国データバンク、野村アセットマネジメント、東日本電信電話、鉄道総合技術研究所、NIWS、大和総研、ヤマハ（博士）静岡大学、室蘭工業大学、イリノイ大学
配属決定までのながれ	面談をしますので、メールでアポを取ってください。なお、面談前に必ず実験室(3E410 ex.5395)を覗いて先輩と話をしてください。
自由記述	<p>上記の「必要とされる知識、能力」以外に以下のような人を歓迎します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 納得していないにもかかわらず「本や論文に書いてあったからそうなのだろう」と信じてしまわない態度。 • 分からないことに対して、分からないと思い、かつ「分からないぞ」と言う素直さ。 • 自分が納得できる段階にまで対象を分解して組み立て直す粘り強さ。 • 飽くなき好奇心。

研究室名	吉瀬研究室	
e-mail アドレス	yoshise@sk.tsukuba.ac.jp	
HP URL	http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~yoshise/	
場所	研究室：F1003	実験室：E409 (+ E410)
研究分野	<p>1. 最適化アルゴリズムの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 連続変数（繁野先生は離散変数）を対象とする凸最適化問題（山本先生は非凸）に対する効率のよいアルゴリズムの開発を行っています。 学生時代に指導教員の研究グループで開発した主双対内点法(primal-dual interior point algorithm)は、現在国内外の殆どの商用最適化ソルバーで採用されており、このアルゴリズムの改良は今も大きな研究テーマのひとつです。 <p>2. サービス企業における効率性のサイエンス</p> <ul style="list-style-type: none"> 筑波大学「サービス・イノベーション・プロジェクト」のメンバーとして、高木先生や岡田先生とともに、実際にサービス企業にヒアリングを行い、最適化を駆使して効率よくサービスを提供するための方法を考えています。 <p>3. 自治体における震災対策の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 筑波大学「巨大地震による複合災害の統合的リスクマネジメント」のメンバーとして、津波に対する避難経路の算出などに取り組もうとしています。 	
<p>こんな関数を扱ったりします</p>  <p>そんな研究で研究員の松川君（右）が学会賞を頂きました（左は東工大の田中君）</p> 		
<p>過去の研究のテーマ、論文題目</p>  <p>センサーの位置を高速に計算します</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホテル従業員の仕事量平準化と人件費を考慮したシフト割当システム作成 看護師の教育目標を考慮した日勤スケジュールの作成 公共交通における乗降客数を用いた OD 交通量の推定について センサー位置同定問題に対する半正定値緩和の効果について 2 次割当問題に対する完全正行列を用いた表現とその緩和について ハミング距離行列、マンハッタン距離行列に対する 2 次割当問題について ユークリッド距離行列補完を用いた時間地図の作成 スポーツスケジュールリングに対する半正定値緩和法、 人材派遣会社のシフト作成システム 信用リスク問題に対するロバスト最適化法について、等 	
募集人数	上限は特にありません	
研究室の人数	<p>今年</p> <p>学類：3 名</p> <p>修士：4 名</p> <p>博士：2 名</p>	<p>来年（予想）</p> <p>学類：? 名</p> <p>修士：4 名</p> <p>博士：1 名</p>
ゼミの頻度	<p>4 年生の場合、1 学期は基礎的な英文テキストを読んで理解したことを話す「輪読ゼミ」（約 2 時間／週）卒業研究着手のための「研究室ゼミ」（約 2-3 時間／週）の 2 回、2, 3 学期は後者のみになります。大学院生は自主的なゼミも含め、週 3 回程度行っています。</p>	

ゼミの形式	<p>数理／最適化というキーワードでつながる，山本先生，繁野先生，八森先生と共同で行うことが多いです。「輪読ゼミ」では毎回指定されたテキストを読み，内容を紹介してもらいます。「研究室ゼミ」ではテキストのかわりに最近の論文を読み，さらに自らのアイデアを加えたオリジナルな研究へと発展させます。</p>
<p>年間スケジュール</p>  <p>SCOPE@筑波 全国から100名以上の院生・研究者が集まります</p>  <p>夏には高大連携プロジェクトもあって、行事の多い研究室です</p>	<p>3月：研究室顔合わせ，追出／新歓迎コンパ</p> <p>4－7月：輪読ゼミ＋研究室ゼミ</p> <p>5月：「SCOPE@筑波」全国の最適化を研究する大学院生が筑波に集まり，発表し，友好を深めます。京都大学，九州大学など，遠方からも多数参加してくれています。以下のURLをご覧ください。</p> <p>http://www.indsys.chuo-u.ac.jp/~jgoto/SCOPE/</p> <p>7月：「夏合宿」4年，M2が「私はこの研究をやります」という意思表示を兼ねた発表を行います。企画はM1，総勢約30名の宴会とイベントを含みます。</p> <p>合宿後－2月：研究室ゼミ</p> <p>10月：中間発表</p> <p>1月末－2月：学類の卒研提出，卒研発表会</p> <p>3月：「地理情報解析サミット@筑波」都市計画専攻の大澤先生，堤先生と一緒にに行っている研究会です。以下のURLをご覧ください。</p> <p>http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~toshiw3/Labo/koshizuka/giant/index.html</p> <p>3月末：追出／新歓迎コンパ</p>
履修しておくべき科目	<p>必修科目外では，数理計画，計算機科学を履修しているとゼミが少し楽かもしれません。（ゼミで初めて本格的に勉強するので，科目を履修しているかどうかはあまり関係ないようにも思っています。）</p>
必要とされる知識、能力 （アプリケーション、語 学力など）	<p>やはり数学を使うことが多いのですが，</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 数学を勉強していてあまり苦にならない <input type="checkbox"/> わからないことがあるととても気持ちが悪い <input type="checkbox"/> 論理的にきちんと説明できると気分がいい <input type="checkbox"/> 人のために役立つことがしたい <p>以上で1つ以上の項目に当てはまる方は，必ず向いていると思います。</p>
過去の学生の進学就職比率	<p>途中で研究室を移籍した学生を除くと，博士前期課程（修士）以上が約6割，博士後期過程（博士）が約2割</p>
過去の学生の進路	<p>進学：（現）筑波大学システム情報工学研究科</p> <p>就職（学類）：リクルート HRM，JTB，（財）スポーツ振興センター，みずほ銀行，NTT ドコモ，ビジネスバンク，日立システムエンジニアリング等</p> <p>就職（院生）：SCSK，野村證券，みずほ信託銀行，横河電機，日立，日本総研，構造計画研究所，文教大学，アークエンジン等</p>
配属決定までのながれ	<p>まず直接あるいはメールで連絡をください。</p>
最後に一言	<p>震災もあってなかなか大変な1年でしたが，</p> <p>研究室のメンバー・楽しいゼミ・週末のプール・ビールとトマトとカモミールのお陰で何とか乗り越えることができそうです。</p> <p>新しいメンバーとなる皆さんに会えることを楽しみにしています。</p> 

研究室名	渡邊 真一郎（組織行動研究室）	
e-mail アドレス	watanabe@sk.tsukuba.ac.jp	
HP URL	http://www.trios.tsukuba.ac.jp/Profiles/0004/0000596/profile.html	
場所	研究室： 3F1236	実験室： 3C308
研究分野	<p>主に産業・組織心理学や組織行動論分野における次のようなテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> • モティベーション • 組織階層別高業績の決定要因分析 • 仕事生活と仕事外生活の関係 • 個人-環境フィット 	
過去の研究のテーマ、論文題目	<p>学生に対してテーマを押し付けることはしません。学生自身の興味と関心を尊重します。卒研では、自分の好きなテーマを好きな方法とプロセスで遂行してみたいかがですか。独立自尊の精神を持ってください。皆さんの先輩達は、上記の分野から自身のテーマを開拓してきました。</p>	
募集人数	原則 3 名	
研究室の人数	今年 学類： 2 修士： 9 博士： 2	来年（予想） 学類： 2 修士： 8 博士： 2
ゼミの頻度	週 1 回を基本とします。	
ゼミの形式	<p>学生にとって重要な環境が私だとしたら、その環境はきわめて構造化されていません。ですので、私と相互作用することによって、あなた自身にとって最適な環境を構築してください。私が構造化する</p>	

	のは、以下の年間スケジュールだけです。
年間スケジュール	<p>4 ～ 6 月：テーマ選択および第 1 章(研究の背景と意義)の完成</p> <p>6 ～ 8 月：既存研究レビュー・仮説構築および第 2 章完成</p> <p>9 ～ 10 月：データ収集と分析方法の選択 (第 3 章完成)</p> <p>11 月～12 月：調査結果のまとめ (第 4 章完成)</p> <p>1 月：卒研の考察 (第 5 章完成)</p>
履修しておくべき科目	<p>統計学の基礎知識</p> <p>経営組織論 (A を取得した実績を要する)</p>
必要とされる知識、能力 (アプリケーション、語学力など)	<p>統計解析ソフト (特に指定はしません)</p> <p>高度な英文読解力</p> <p>既存研究に囚われない自由で開放的な発想</p>
過去の学生の進学就職比率	約 2 割程度
過去の学生の進路	<p>進学：</p> <p>筑波大学システム情報工学研究科 (4 名) 東工大大学院 (1 名)</p> <p>経営・政策科学研究科 (1)</p> <p>就職 (学類)：日本総合研究所、日立製作所、富士重工業、パソナ、</p> <p>(株) ビジネスコンサルタント、K D D I、東芝インフォメーションシステムズ、(株) サイバーエージェント、その他</p>

	<p>就職（院生）：日本総合研究所、日立製作所、自営会計士、自衛官、</p> <p>ユニクロ、順天堂大学、東芝、その他</p>
配属決定までのながれ	<p>E-mail で面接の予約をしてください。面接の際には、どのようなことを勉強したいかを、明瞭簡潔に述べられるようにしておいてください。</p>
自由記述	<p>当ゼミは、人間行動に強い興味を抱き、継続的に自立学習できる人を求めています。上記の年間計画を自主的に遂行したい人、またできる人でなければなりません。自分自身で研究テーマを開拓しようという意欲を持ち、そして文系の素養をも兼ね備えた学生を歓迎します。</p>